



おとなのワクチン 「破傷風ワクチン」



講師：宮田智仁副院長

皆さんこんにちは。おとなのワクチン2つ目は「破傷風ワクチン」です。破傷風は破傷風菌による感染症です。

破傷風菌は

破傷風菌は土壌中に広く存在し、創傷を契機として体内に侵入し、体内で発芽・増殖して毒素を産生します。

神経毒である毒素により創周囲の異常感覚、開口障害が起こりその後全身けいれんを起こすようになります。

死亡率は10%とされ、日本でも年間100例ほどの発生が毎年あります。

年間で100例ほどなので気にする事がないと思うかもしれませんが、稀な病気であることより多くの医師が実際の患者さんを診察したことがないため、診断が遅れてしまうといったことが起こり得ます。

災害時に必要な破傷風ワクチン

実は、この破傷風です。近年災害に備えたワクチンとして注目されています。

ます。それは毎年起こる災害とくに水害で破傷風の発症が見られるからです。

河川からあふれ出た濁流の中で損傷した傷から破傷風菌が侵入し破傷風を発症させるのです。災害ボランティア活動に参加する場合には、接種が推奨されています。また畑などの土いじりをされる方も高リスク者となります。

破傷風ワクチンは、1968年（3億円強奪事件の年ですね。）から定期接種されており、1969年以降に出生した方は、通常は接種をしたことがありません。そのために破傷風を発症される方は接種歴のない1968年以前の生まれの方に集中しています（図1）。ただし破傷風ワクチンは不活化ワクチン（注1）であり、その効果は10年とされています。小児の頃に最後に接種する時期

が11-12歳です。1969年以降の出生の方でも22歳以降は免疫力が落ちていると考えないといけません。

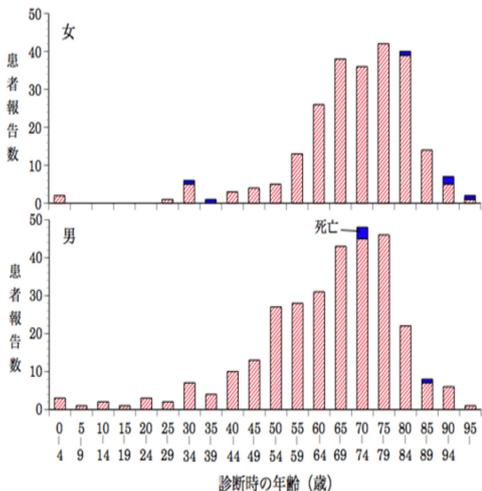
ワクチンは3回連続で

破傷風ワクチンの基本的な免疫力を付けるには3回連続して接種する必要があります。1回目と2回目の間隔は1か月以上、2回目と3回目の間隔は6か月以上となっており、3回目を接種して初めて基礎免疫が付いたこととなります。

住んでおられる方は、破傷風ワクチンを接種して欲しいと思っています。次回は「带状疱疹ワクチン」についてお話しいたします。

※注1：ワクチンには大きく分けて生ワクチンと不活化ワクチンがあります。生ワクチンは生きてきた病原体を弱毒化させたものであり、本物の為免疫力がしっかりとつきます。一方不活化ワクチンは、病原体の死骸の一部であったりするため強い免疫力がつかず、効果も持続する期間が短くなっています。

その後は10年ごとに追加接種を受けて、落ちてくる免疫力を上げる必要があります。畑仕事をされる方や水害の危険性のある地区に



(感染症発生動向調査：2009年2月14日現在報告数)

